

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 2 区分
【発行日】平成28年3月3日(2016.3.3)

【公開番号】特開2014-145819(P2014-145819A)
【公開日】平成26年8月14日(2014.8.14)
【年通号数】公開・登録公報2014-043
【出願番号】特願2013-12998(P2013-12998)
【国際特許分類】

G 0 3 B 11/04 (2006.01)

G 0 3 B 17/04 (2006.01)

【F I】

G 0 3 B 11/04 B

G 0 3 B 17/04

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月19日(2016.1.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

沈胴状態から繰り出して撮影可能状態となるレンズ鏡筒のバリア装置であって、
レンズを外部に露出させる開口部を開閉する遮蔽部材と、
前記遮蔽部材を駆動する駆動部材と、

光軸方向の前記レンズと前記駆動部材との間隔が、前記レンズ鏡筒が沈胴状態のときは第 1 距離であり、前記レンズ鏡筒が撮影可能状態のときは前記第 1 距離よりも小さい第 2 距離であり、撮影可能状態で前記駆動部材により前記遮蔽部材が開いた後のスペースに前記レンズを移動させて前記間隔を変更する間隔変更部材を備え、

前記駆動部材は、撮影可能状態で外力が加わった場合に前記駆動部材が前記レンズを受ける受け面部を有することを特徴とするバリア装置。

【請求項 2】

前記駆動部材の受け面部は、撮影可能状態で外力が加わった場合に前記レンズの光学的な有効範囲外の部分を受けることを特徴とする請求項 1 に記載のバリア装置。

【請求項 3】

前記駆動部材は、前記開口部の短辺方向に位置する複数の前記受け面部を有することを特徴とする請求項 2 に記載のバリア装置。

【請求項 4】

前記間隔変更部材は、光軸方向における前記レンズと前記駆動部材との相対的な位置関係を規制するカム筒および直進筒を備えることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載のバリア装置。

【請求項 5】

前記受け面部は、前記遮蔽部材の退避スペース内に位置し、かつ前記遮蔽部材の滑走面よりも前記レンズの側に位置することを特徴とする請求項 2 ないし 4 のいずれか 1 項に記載のバリア装置。

【請求項 6】

請求項 1 ないし 5 のいずれか 1 項に記載のバリア装置を備えることを特徴とするレンズ鏡筒。

【請求項 7】

請求項 6 に記載のレンズ鏡筒を備えることを特徴とする撮像装置。